

各教科等における 「令和2年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

新学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されました。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、各教科等の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、こうしたことを踏まえ、「確かな学力」において目指す子供を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、その具体的な姿を「阿波っ子 学びのススメ10か条」に示し、「豊かな心」・「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿の実現を図ります。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 生きて働く知識・技能
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント (国語力向上タスクフォースの提案から)

本県の児童生徒に身に付けさせたい力

- ・ 文章の中心的部分と付加的な部分、問題提起の部分と具体例、まとめの部分などを読み分けて要旨を捉えたり、問いの意図やその解決に至る経緯を正しく理解したりする力
- ・ 目的に応じて必要な情報を集めるための見直しをもって臨み、根拠として取り上げている内容が適切であるかどうかを吟味したり、また、その根拠が適切であるか理由が明確になるように自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりする力
- ・ 相手の意図を捉えたりしながら自分の考えを明確にもち、その考えを深めるために、場に合った適切な言葉遣いで話したり、書いたりしながら、互いに伝え合う力

正確に読み取らせるには！！

○ 何が書かれているかを的確に捉えよう！



主体的・対話的で深い学びの視点からは！！

- 自分の思いや考えを「書く」場面を増やそう！
- 自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やそう！
- 学んだことを振り返る場面を工夫しよう！

深い学びにつながる三つの発問は！！

- 別の言葉に言い換えてみよう。
- 比べてみよう。関連付けてみよう。
- そう考えた根拠と理由は何だろう。



小学校の各教科等の重点

目指す子供の姿

- 音楽活動を通して、曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたり理解したりすることができる。
- 思いや意図に合った音楽表現をするための技能を身に付けて、演奏したり音楽をつくったりできる。
- 音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏の楽しさやよさを見いだしながら、音楽を味わって聴いたりできる。
- 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に、表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①音楽活動の中で、実感を伴いながら知識を習得したり更新したりする学習活動の充実

- ◇児童が音楽から感じ取ったイメージや感情と、音楽を形づくっている要素の表れ方などとの関係を捉え、知識として習得したことを、表現や鑑賞の活動に生かすことができるような学習活動を設定する。

②技能と「思考力、判断力、表現力等」の育成とを関わらせた学習活動の充実

- ◇低学年では音楽表現を楽しむために、中・高学年では表したい音楽表現をするために必要な技能の習得を目指す。
- ◇音楽表現を考える過程で、思いや意図を実現するための技能を習得することの必要性を実感できるような学習活動を設定する。

③児童の思いや意図を音楽表現に生かしたり、音楽のよさや面白さを見だし、曲全体を聴き深めたりすることができるような学習活動の充実

- ◇音楽を形づくっている要素を支えとして、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える学習場面を設定する。
- ◇演奏して試す、何度も聴く、話し合いなどによって、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、それによって気付いたり、表現や鑑賞の活動を深めていけるような指導を工夫する。

④児童の学びへの意欲を引き出す指導計画の作成

- ◇題材など内容や時間のまとまりを見通して、児童の興味・関心が高まるような導入や手立て、振り返りの工夫をする。